Panasonic®

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　SC-HT06

⑥～⑬ ページ　**ホームシアターの準備**

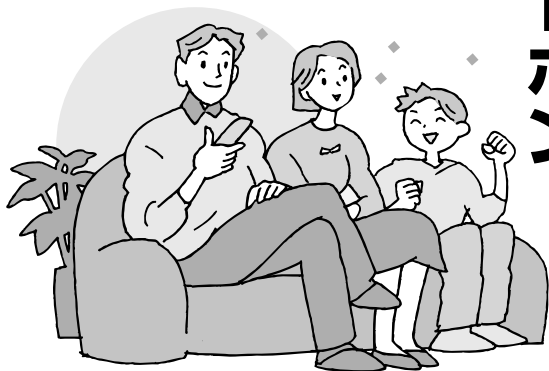
詳しいもくじは、3ページをご覧ください。

8 ページ ～ 13 ページ
接続する
付属のスピーカーとつなぐ
テレビ、DVDレコーダー、ビデオデッキとつなぐ
テレビ、DVDプレーヤー、ビデオデッキとつなぐ

14 ページ ～ 15 ページ
サウンドモード
映画にも音楽にも迫力を！

15 ページ
ドルビーヘッドホン
ヘッドホンでも
臨場感のある
音声を楽しめる！

20 ページ ～ 21 ページ
本機のリモコンで
接続機器を操作する

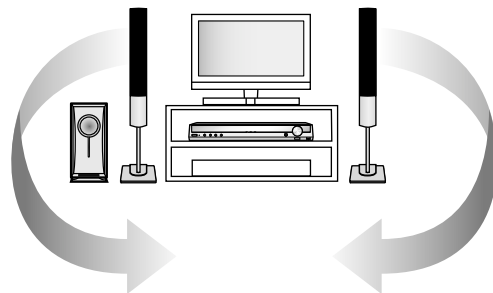
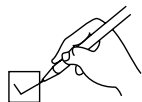
ご使用の前に
使ってみよう
必要なとき

保証書別添付　上手に使って上手に節電

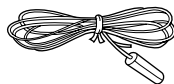
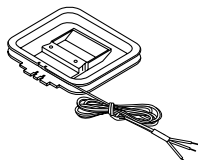
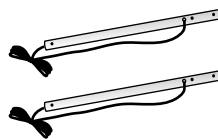
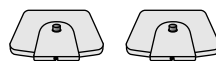
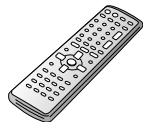
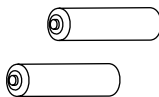
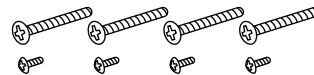
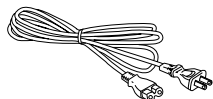
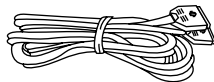
このたびは、ホームシアターオーディオシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
■ この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」（➔ 24 ～ 25 ）はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
■ お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
■ 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

RQT8151-3S

省スペースで迫力あるサウンドを楽しめる ホームシアターシステム

● 本機は、ドルビーバーチャルスピーカー回路を搭載しています。フロントスピーカーとサブウーハーだけで、5.1 ch サラウンドに迫る音響効果を発揮しますので、限られた空間でもホームシアターを楽しむことができます。

● 本機はドルビーヘッドホン機能を搭載しています。ヘッドホンでも迫力あるサウンドを楽しむことができます。

付属品の確認

組み立て、接続の前に付属品を確認してください。

□FM 簡易型アンテナ★（1 本）【RSA0007-L】

□AM ループアンテナ★（1 本）【N1DAAAA00002】

□スタンド用パイプ★（2 本）【RYQV0060B-1】

□スタンド用ベース★（2 コ）【RYQV0059-S】

□リモコン★（1 コ）【EUR7722080】

□リモコン用乾電池（単 3 形：2 コ）

□スタンド用ネジ★（大 4 コ、小 4 コ）
大【XTN5+32FFN】 **小**【XTN4+8FFN】

□電源コード★（1 本）【RJA0012-K】

□システムケーブル★（1 本）【K1HA25HA0001】

お願い

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は買い替え時の品番です。
- 付属品の品番は、2005年3月現在のものです。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。
  また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

もくじ

本書内の表現について 参照していただくページまたは場所を（➜ ○○）で示しています。（○○は数字または場所）

まず ご使用の前に

ホームシアターの準備

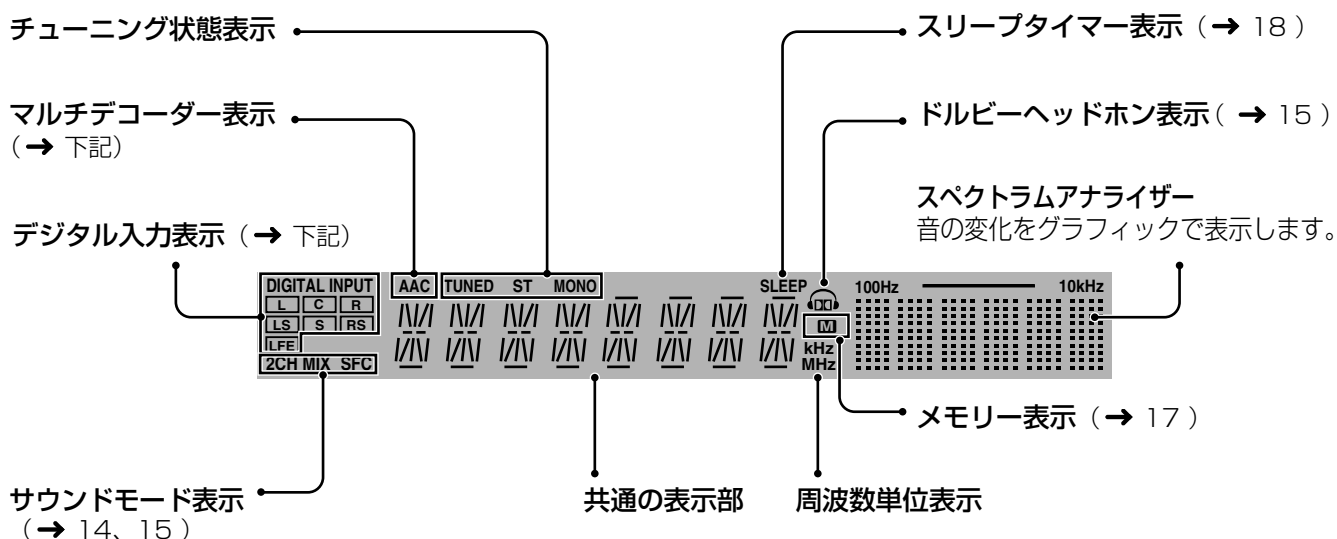
さあ 使ってみよう！

もし 必要なとき

各部のなまえ

本体

表示部

●DIMMER（➜ 18、「表示部を暗くする」）を使って明るさを変えることができます。

マルチデコーダー表示について

入力ソース（音源）の信号やデコード形式により次のランプが点灯します。

- DIGITAL：ドルビーデジタルソースを再生しているとき
- PLⅡ：ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき
- dts：DTS ソースを再生しているとき
- AAC：AAC ソース（BS デジタル放送など）を再生しているとき

デジタル入力表示について

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。

- L：フロントチャンネル（左）
- C：センターチャンネル
- R：フロントチャンネル（右）
- S：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示
- LS：サラウンドチャンネル（左）
- RS：サラウンドチャンネル（右）
- LFE：重低音効果チャンネル

リモコン

AV システム（接続機器）電源ボタン
（➜ 20、21 ）

アンプ(本体)電源ボタン
（➜ 14）

AV システム（接続機器）操作ボタン
（➜ 20）

数字ボタン
（➜ 16、17、20、21 ）

ダイレクトチューニング（直接選局）ボタン （➜ 16 ）

サブウーハーレベル調整ボタン
（➜ 19 ）

入力モード切換ボタン （➜ 19 ）

音声切換（AAC 音声モード切換）ボタン（➜ 19 ）

サウンドモード、ドルビーヘッドホンモード選択ボタン（➜ 14、15）

入力ソース（音源）、リモコン操作モード切換ボタン
（➜ 20、21）

ラジオ選択/バンド切換ボタン
（➜ 16 ）

チャンネル選局ボタン
（➜ 17、21 ）

音量調整ボタン
（➜ 14 ）

AV システム（接続機器）操作ボタン
（➜ 20、21 ）

消音ボタン（➜ 19）

各種調整/設定ボタン
（➜ 15、19）

リモコンの準備

乾電池の入れかた

ふたのふちを押しながら開ける

⊕と⊖を確認！
（単 3 形）

リモコンの使いかた

■使用上のお願い
- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部と送信部のほこりに注意。

■本体をラックに入れて使用するとき
ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

ホームシアターの準備

接続する前に

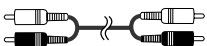
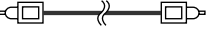
- **接続するときには、各機器の電源を切ってください。**
- 接続する機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。
- **本システムでは付属のフロントスピーカーとサブウーハーだけを使用します。サラウンドスピーカーやセンタースピーカーなどを接続することはできません。**

接　続　手　順

フロントスピーカーの組み立て

▼

接続 1　スピーカーの接続

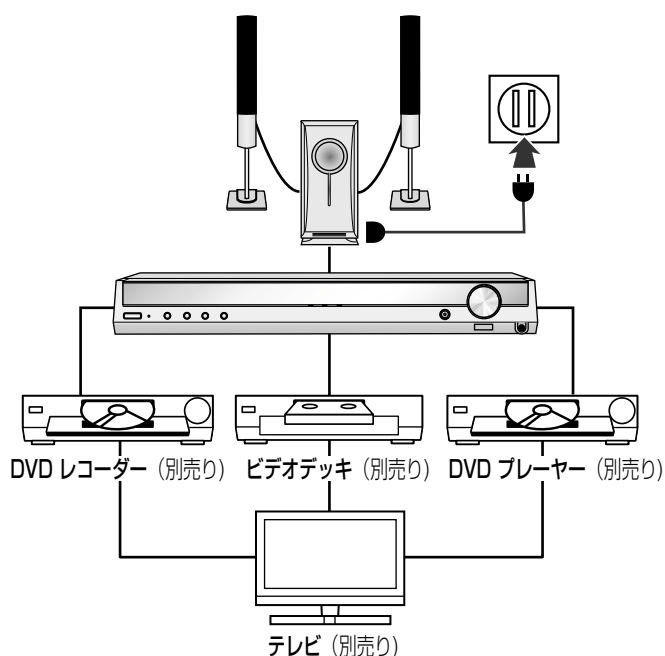
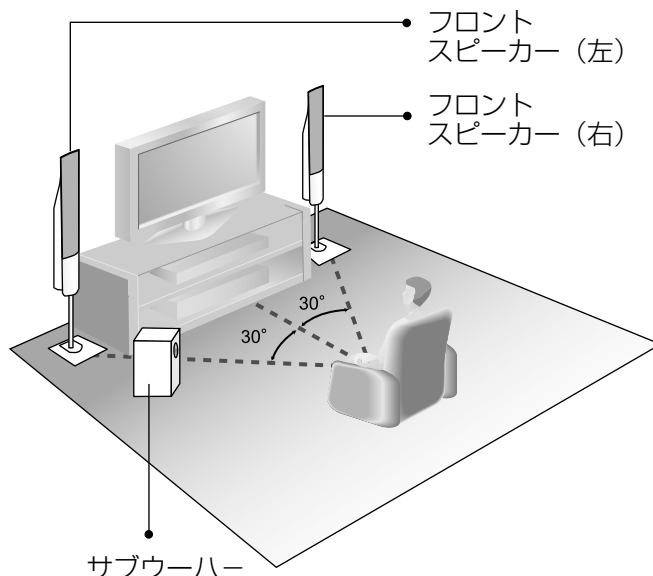
接続 2　各機器の接続

接続 3　アンテナの接続

接続 4　電源コードの接続　＜必ず最後に接続してください

別売り品のご紹介

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

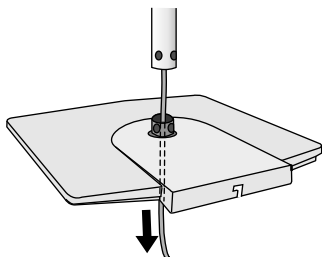
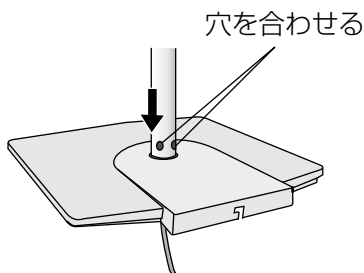
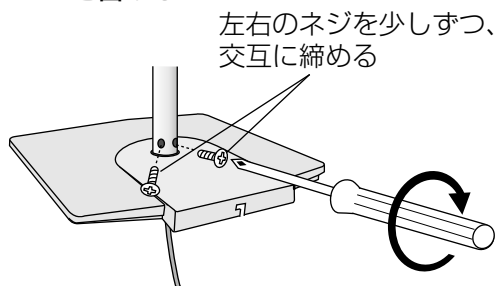
コード/ケーブル名	長さ	品　番
ステレオピンコード★	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(2.0 m)	RP-CAP3G20
	(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(10.0 m)	RP-CAP3G100
光デジタルケーブル★	(0.5 m)	RP-CA2005A
	(1.0 m)	RP-CA2010A
	(2.0 m)	RP-CA2020A
	(3.0 m)	RP-CA2030A

配線概略図

スピーカー設置例

フロントスピーカーの組み立て

<完成図>

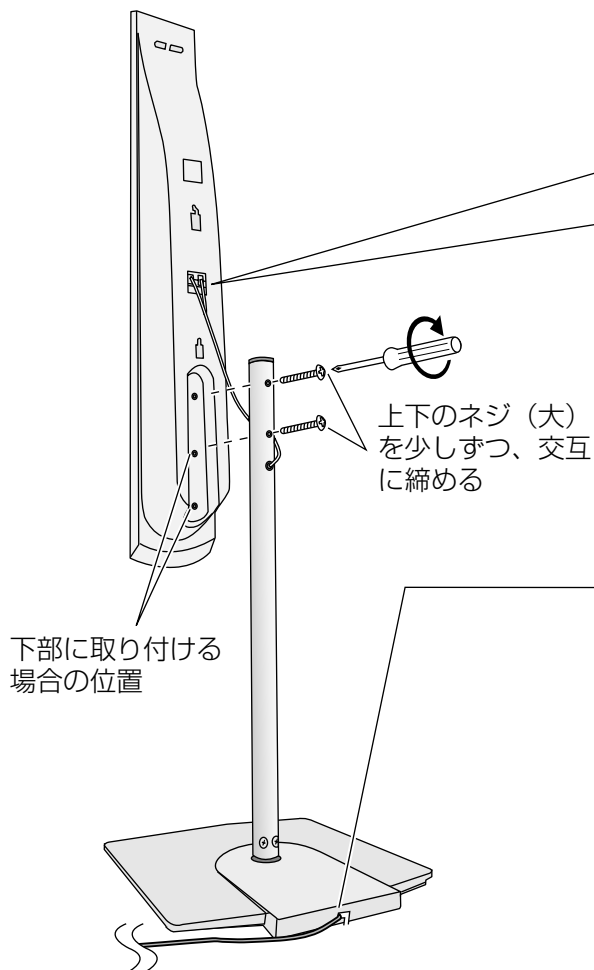
- ●スピーカーを傷つけないよう、柔らかい布などの上で組み立ててください。
- ●プラスのドライバーを用意してください。
- ●スピーカーおよびスタンドに左右の区別はありません。
- ●スピーカーが転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置してください。それ以外の場所への設置は、転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。
- ●付属のスピーカースタンドは、本システム専用です。他のスピーカーには使用しないでください。

1 パイプをベースに取り付ける

1 スピーカーコードをベースの穴に通す

2 パイプを差し込む

3 付属のネジ（小）でしっかりと留める

(お知らせ) 完全に締めた状態でも、ネジの頭は少し外に出ます。

2 スピーカーをスタンドに取り付ける

上下のネジ（大）を少しずつ、交互に締める

下部に取り付ける場合の位置

1 スピーカーコードを端子に接続する

コードの先端にカバーが付いている場合は、ねじりながらカバーを抜き取る

銀色　銅色

2 スピーカーコードを溝に押し込む

3 スピーカーコードがたるむ場合は、ベースの下から引っ張り出しながら、パイプの中に送り込む

4 スピーカーコードをベースに固定する

より良い音響効果を得るには

テレビ画面とスピーカー部の中心が同じ高さになるよう調節（2段階）してください。

スピーカー部

接続1　スピーカーの接続

付属のスピーカー以外はご使用になれません
他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因にもなります。

防磁設計について

- 本システムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステム（防磁設計 JEITA*）ですが、設置の仕方によっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15〜30 分後に再び電源を入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを更に離してご使用ください。
- 近くに磁石等磁気を発生するものが置かれている場合には、本システムのスピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

*「防磁設計 （JEITA）」とは、（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

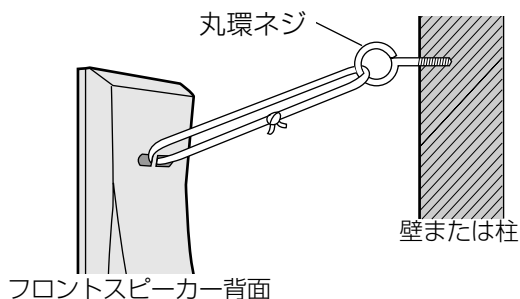
1 フロントスピーカーをサブウーハーに接続する

R (右)、L (左) と+、−をご確認のうえ、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードは、市販のコードと取り替えることができます。

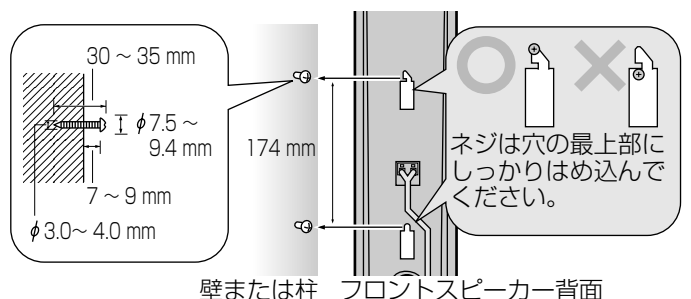
2 サブウーハーを本体に接続する

フロントスピーカーの転倒を防ぐには

丸環ネジと丈夫なロープ（ともに市販）を使って、壁や柱に固定します。

- 壁や柱の材質に適したネジを使用してください。
- 壁や柱によっては、ネジを使用できない場合があります。詳しくは施工者の方などにご相談ください。

フロントスピーカーを壁に取り付けるには

2つのネジ（市販）を使って、壁や柱に固定します。

- 壁や柱は、10 kg 以上の重量を支えられる強度が必要です。詳しくは施工者の方などにご相談ください。
- スピーカーの落下を防ぐために、左記のロープによる固定も併用されることをおすすめします。

接続2　各機器の接続

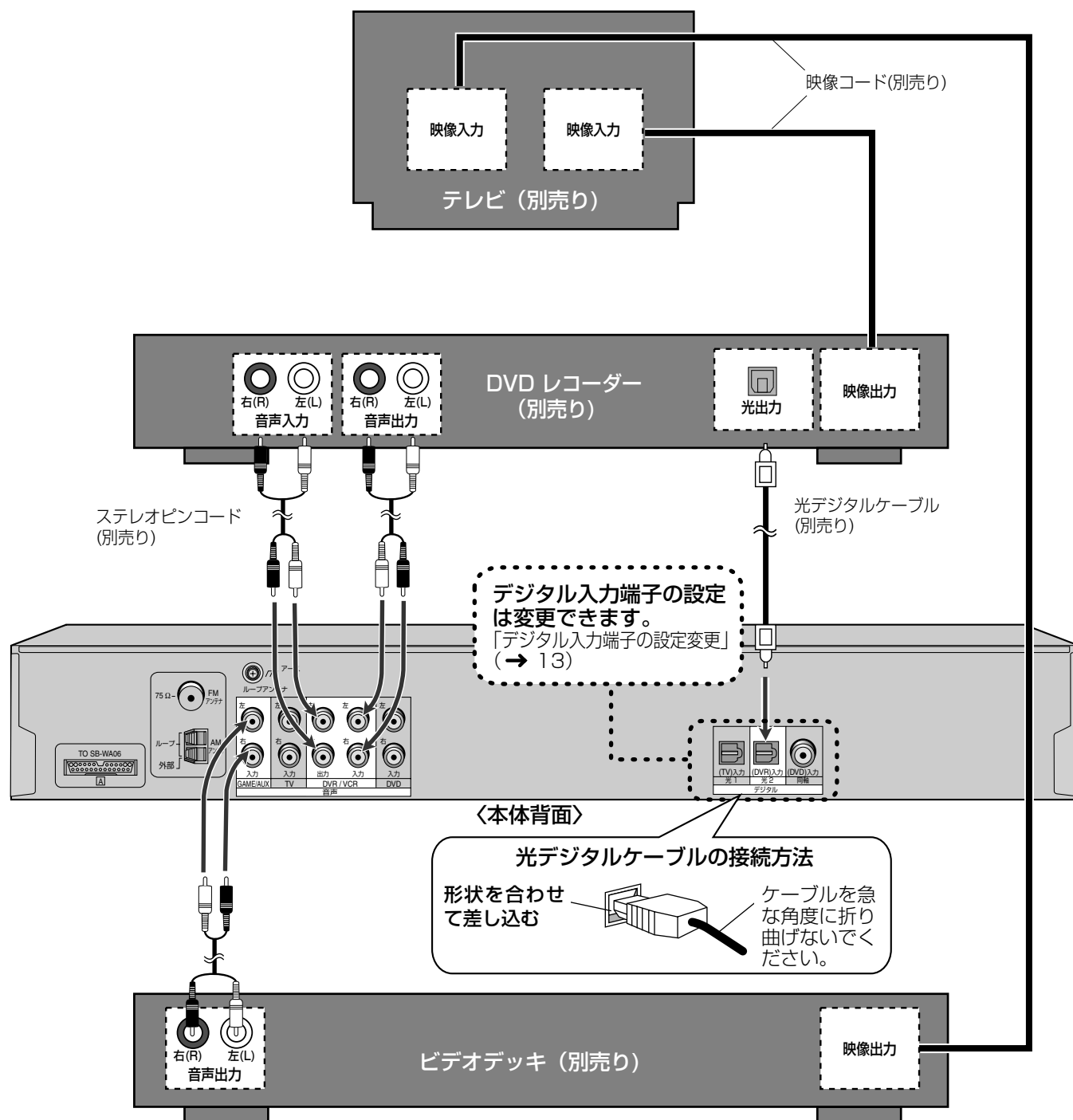
DVDレコーダー、ビデオデッキ、テレビを接続する

別売り品となっていますので、必要に応じてご購入ください。（詳しい品番は ➜ 6）

● ステレオピンコード★［品番：RP-CAP3G10（1 m）など］
（L/左）白
（R/右）赤

● 光デジタルケーブル★［品番：RP-CA2010A（1 m）など］
角型　角型

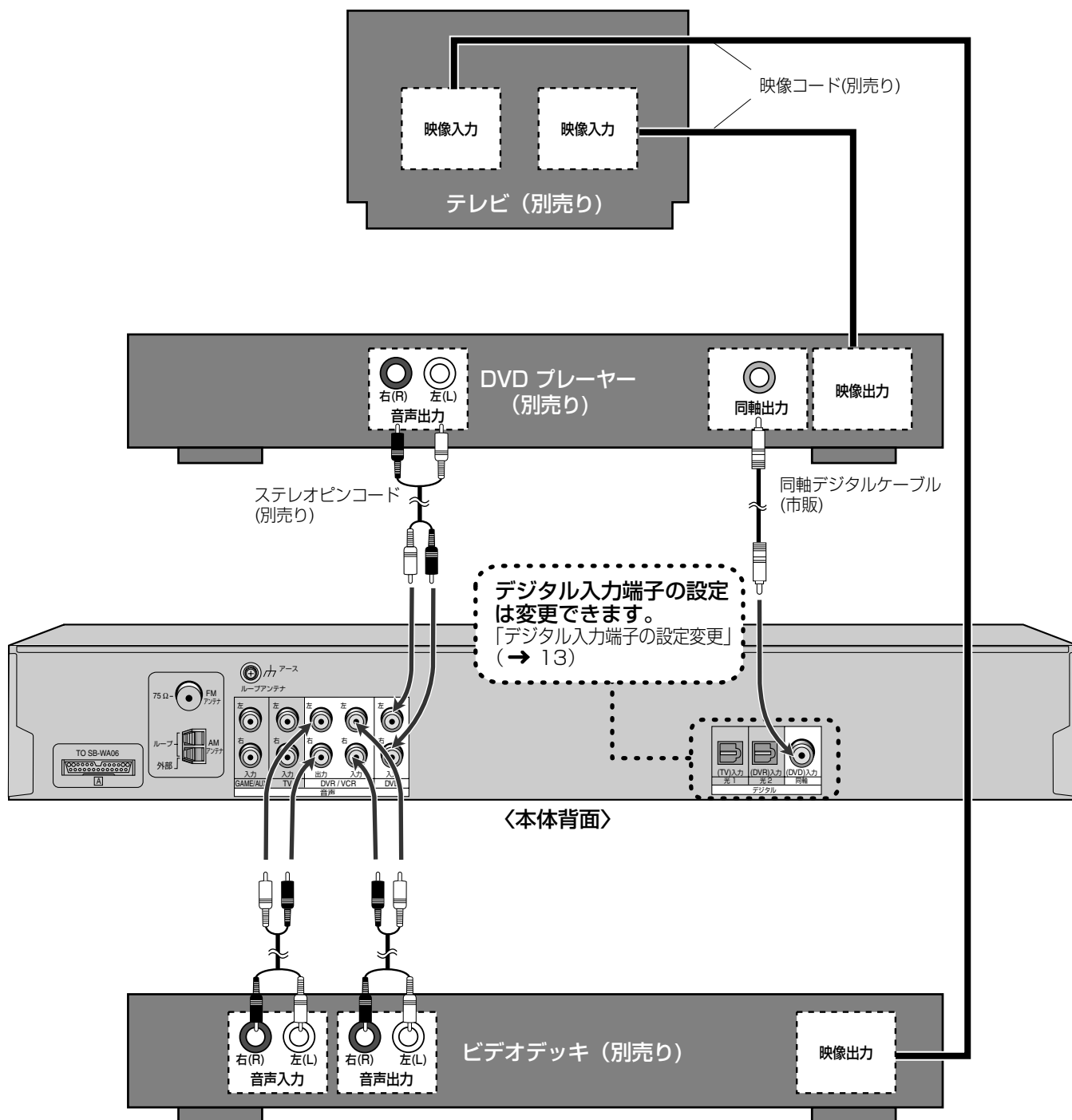
● 映像コードに関しては、接続機器の説明書をご覧ください。

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

接続2　各機器の接続（つづき）

DVDプレーヤー、ビデオデッキ、テレビを接続する

別売り品となっていますので、必要に応じてご購入ください。（詳しい品番は ➔ 6）

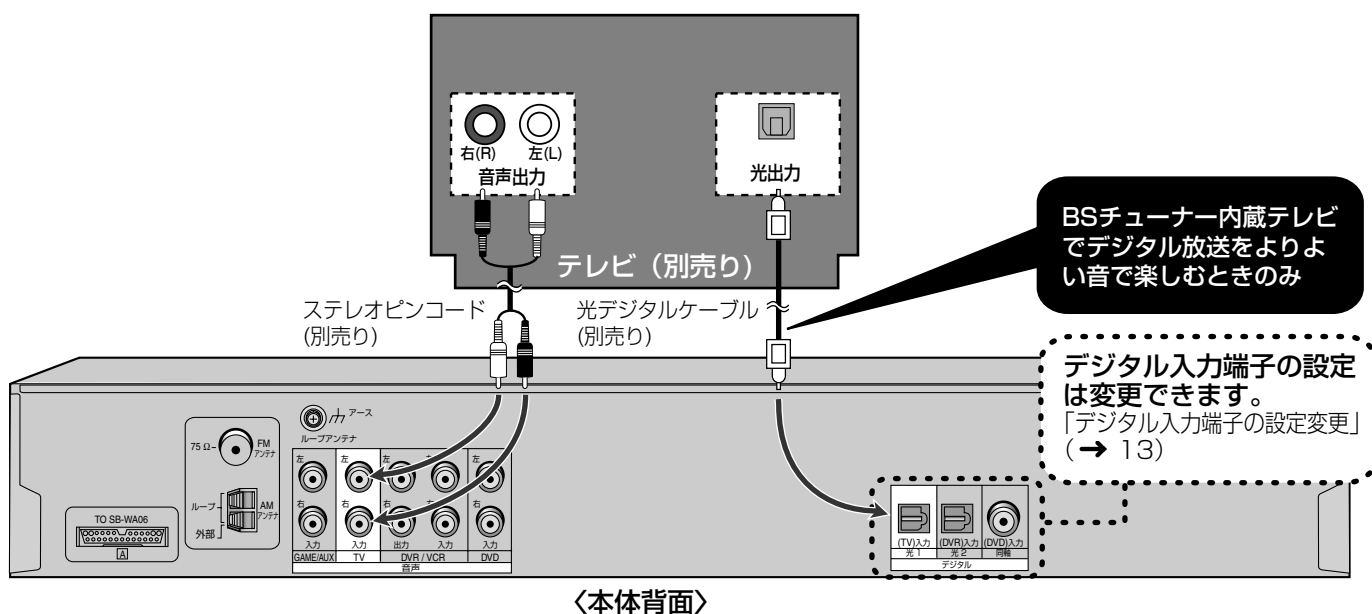
- ステレオピンコード★ [品番：RP-CAP3G10（1 m）など]
  （L/左）白
  （R/右）赤
- 同軸デジタルケーブル（市販）
- 映像コードに関しては、接続機器の説明書をご覧ください。

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビだけを接続する

別売り品となっていますので、必要に応じてご購入ください。（詳しい品番は ➜ 6）

- **ステレオピンコード★**［品番：RP-CAP3G10（1 m）など］
  (L/左) 白
  (R/右) 赤
- **光デジタルケーブル★**［品番：RP-CA2010A（1 m）など］
  角型　角型

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

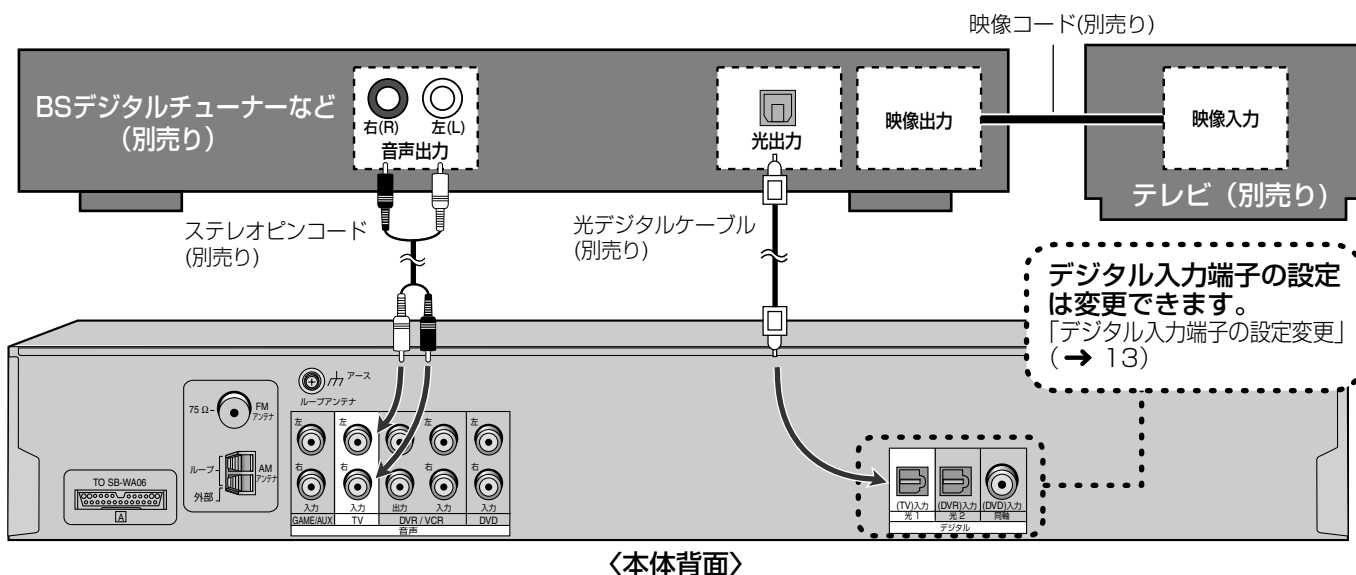
〈本体背面〉

BSデジタルチューナーなどを接続する

別売り品となっていますので、必要に応じてご購入ください。（詳しい品番は ➜ 6）

- **ステレオピンコード★**［品番：RP-CAP3G10（1 m）など］
  (L/左) 白
  (R/右) 赤
- **光デジタルケーブル★**［品番：RP-CA2010A（1 m）など］
  角型　角型
- **映像コードに関しては、接続機器の説明書をご覧ください。**

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

テレビ用の入力端子を使って、BS デジタルチューナー（別売り）や CS チューナー（別売り）などを接続できます。

〈本体背面〉

接続2　各機器の接続（つづき）

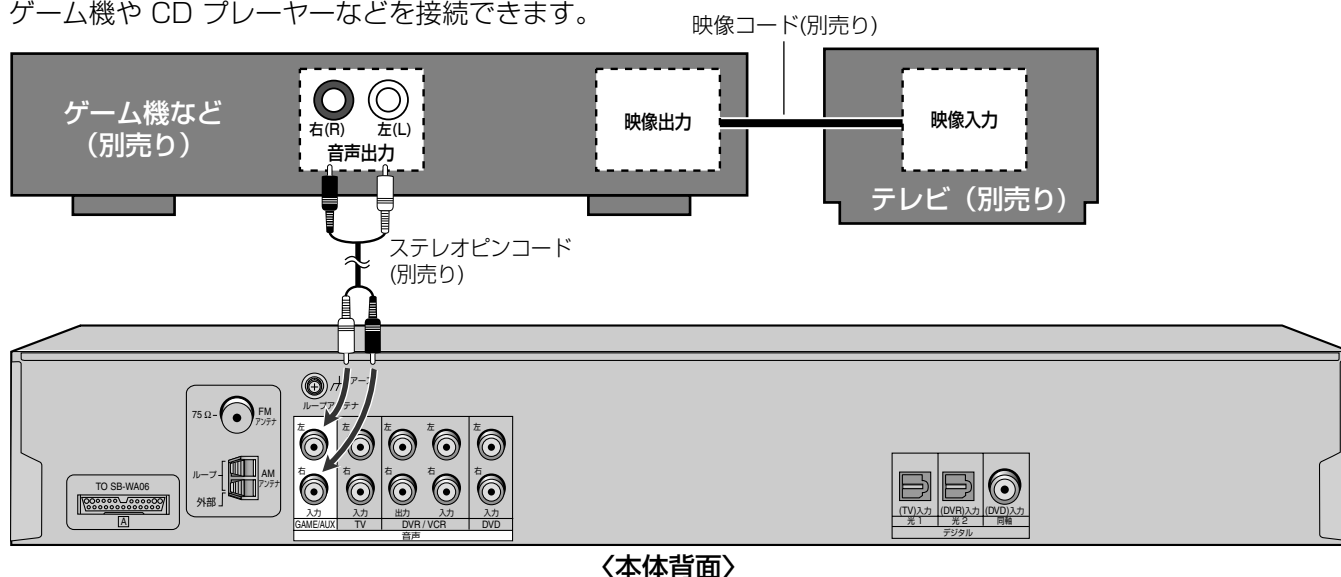
ゲーム機などを接続する

別売り品となっていますので、必要に応じてご購入ください。（詳しい品番は ➜ 6）

- ステレオピンコード★［品番：RP-CAP3G10（1 m）など］
  （L/左）白
  （R/右）赤
- 映像コードに関しては接続機器の説明書をご覧ください。

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。品番は変更されることがあります。

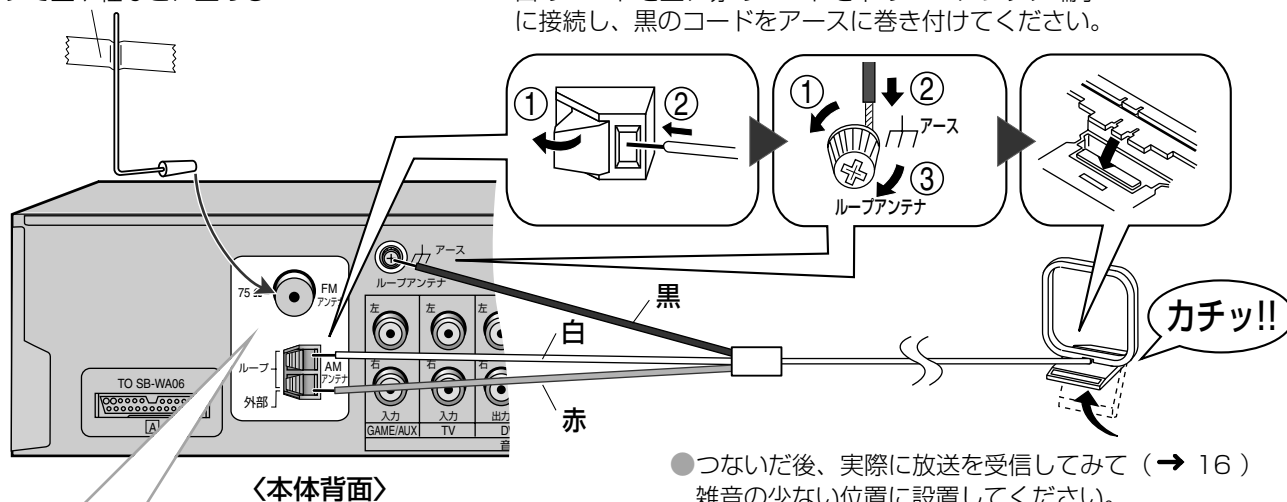
ゲーム機や CD プレーヤーなどを接続できます。

〈本体背面〉

接続3　アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ（付属）
テープで壁や柱などに止める

AM ループアンテナ（付属）
白のコードを上、赤のコードを下のAM アンテナ端子に接続し、黒のコードをアースに巻き付けてください。

〈本体背面〉

●つないだ後、実際に放送を受信してみて（➜ 16 ）雑音の少ない位置に設置してください。

FM 放送をよりよい音で受信するためには

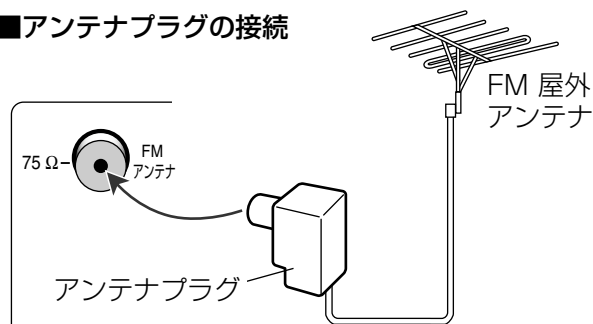
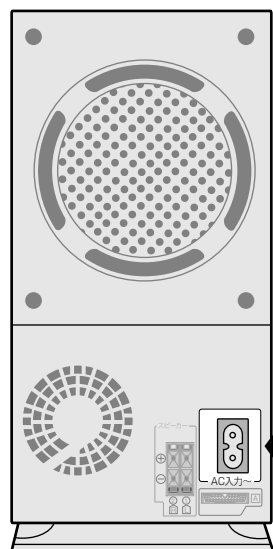
屋外アンテナを使うのも一つの方法です

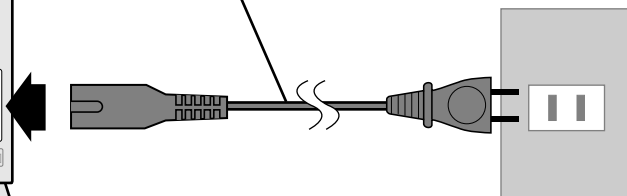
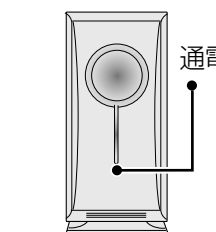
●山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。
●アンテナ線（同軸ケーブル）をアンテナプラグ（市販）に取り付けて、後面に接続します。付属の FM 簡易型アンテナは外してください。

お知らせ

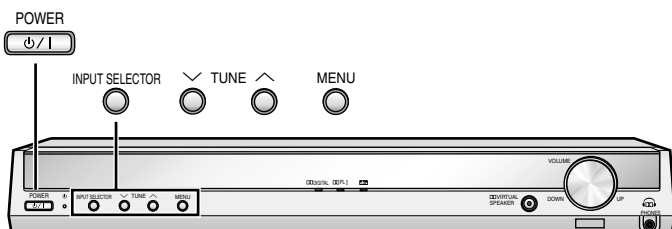
分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

■**アンテナプラグの接続**

75 Ω
FM
アンテナ
FM 屋外
アンテナ
アンテナプラグ

接続4　電源コードの接続

電源コードは必ず最後に接続してください。

電源プラグをコンセントに接続した状態で約 1 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。ただし、電源プラグを抜いた状態で約 2 週間そのままにしておくと、本機の各種設定は工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度、設定してください。

〈サブウーハー背面〉

通電ランプについて

デジタル入力端子の設定変更

デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を***OPT 1***（光1）、***OPT 2***（光2）、もしくは***COAX***（同軸）に変更します。
例えば、お手持ちの DVD プレーヤーを“光1（TV）入力”に接続した場合、下記手順4、5で、“ ***DVD*** ”を“***OPT 1***”（光1）に設定することで使えるようになります。

1 本機の電源を入れる

POWER　押す

2 設定モードに入る

TUNE ∨ ∧　同時に押す　SETUP　約2秒表示

3 “*D-INPUT*” を選ぶ

INPUT SELECTOR　押して選ぶ　D-INPUT

DR COMP、***A/D ATT***、***D-INPUT***

4 デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ

MENU　押して選ぶ

TV：テレビ
DVR：DVDレコーダー
DVD：DVDプレーヤー

5 デジタル入力の設定を変更する

TUNE ∨ または ∧　押して選ぶ　OPT1

OPT1、***OPT2***、***COAX***

手順 4、5 をくり返して各入力端子の設定を変更する。

6 設定を完了する

TUNE ∨ ∧　同時に押す　COMPLETE

お知らせ

ひとつの入力端子には、ひとつの機器だけ設定できます。
例えば“***TV***”を“***OPT1***”から“***OPT2***”に変更すると、“***DVR***”は自動的に“***OPT1***”に切り換わります。

映画や音楽を楽しむ

本機で再生できるデジタル信号

各信号について詳しくは用語解説(➜ 22)をご覧ください。

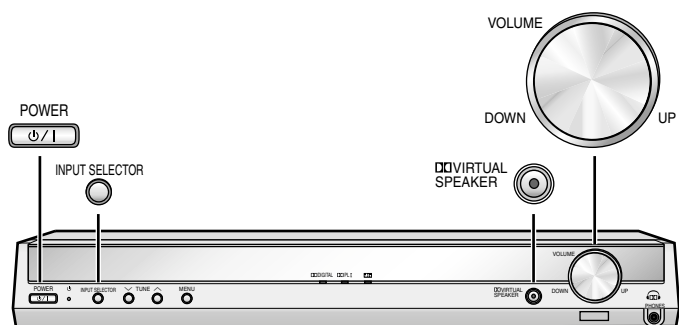
- AAC
- ドルビーデジタル
- DTS
- CD などの PCM 信号 (96 kHz、88.2 kHz の PCM 信号も含む。)

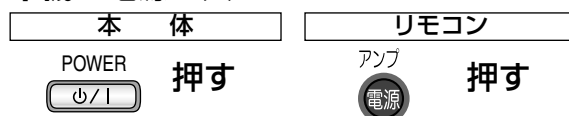
ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

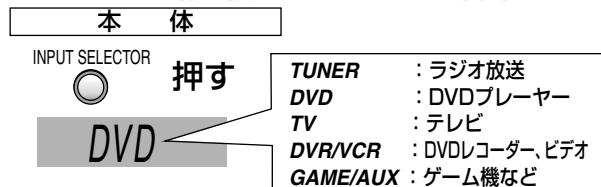
デジタル信号について

デジタル信号が入ったときや、デジタル入力モードに切り換えたときは、表示部にデジタル入力表示が点灯します。(➜ 4)

サウンドモードについて

PCM 信号のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるときは、ドルビーバーチャルスピーカーと SFC の各モード、およびドルビーヘッドホンモードは使用できません。

再生する

1 本機の電源を入れる

2 セレクターを切り換え、入力ソース(音源)を選ぶ

TUNER	: ラジオ放送
DVD	: DVDプレーヤー
TV	: テレビ
DVR/VCR	: DVDレコーダー、ビデオ
GAME/AUX	: ゲーム機など

3 入力ソース(音源)を再生する

4 好みのサウンドモードを選ぶ

5.1CHサラウンド効果で楽しむ (DOLBY VIRTUAL SPEAKER)

DVDなどの多チャンネルデジタルソースだけでなく、ビデオやラジオ放送などのステレオソースで5.1 CH サラウンド効果が楽しめます。

入力ソースが、ドルビーデジタルや DTS など多チャンネルデジタル信号の場合、再生が始まると自動的にドルビーバーチャルスピーカーモードになります。

好みのサラウンド効果で楽しむ SFC(Sound Field Control)

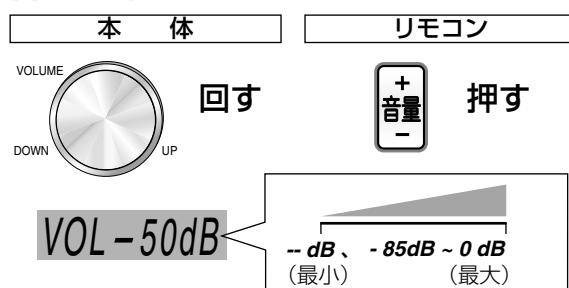
ビデオやCDなどのステレオソースに好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

お知らせ

マルチチャンネルソース入力時はSFCモードは使用できません。[SFC]を押すと、"NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE"というメッセージが表示(スクロール)されます。

ドルビーバーチャルスピーカーおよびSFCの効果は入力ソースによって異なります。実際の音をお聞きのうえ、適したモードを選んでください。

5 音量を調整する

本　体	リモコン
回す	押す

■ **再生を楽しんだ後は**
音量を下げてから[⏻/I POWER]を押して電源を切ってください。

わからない用語は 22ページ

ヘッドホンで楽しむ

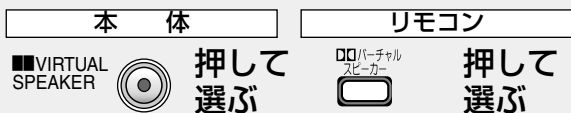
サウンドモード

本体

押して選ぶ

リモコン

押して選ぶ

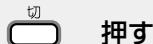
REF

● [DD VIRTUAL SPEAKER] ボタンのランプが点灯します。

REF（標準モード）
左右フロントスピーカーとサブウーハーだけで、5.1CHサラウンド効果が得られます。

WIDE（ワイドモード）
左右の音場を更に広くするモードです。スピーカー間隔が狭い場合に適しています。

■ 解除する

リモコン

押す

STEREO

入力ソースが2CHの場合、STEREOモードになる
サラウンド効果無しの状態

2CH MIX

入力ソースがマルチチャンネルの場合、2CH MIXモードになる
多チャンネルの信号を2CHに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。

リモコン

押して選ぶ

● ディスプレイに“SFC”が点灯し、[DD VIRTUAL SPEAKER] ボタンのランプが点灯します。

ミュージック

LIVE（ライブ）
大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。

POP/ROCK（ポップ/ロック）
ポピュラーやロック音楽に適した効果。

VOCAL（ボーカル）
ボーカルの声を際立たせる効果。

JAZZ（ジャズ）
ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。

DANCE（ダンス）
ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。

AV/ムービー

DRAMA（ドラマ）
セリフがメインになるようなドラマに適した効果。

ACTION（アクション）
迫力のあるアクション映画に適した効果。

SPORTS（スポーツ）
スポーツ観戦しているような臨場感。

MUSICAL（ミュージカル）
ミュージカル劇場にいるような臨場感。

GAME（ゲーム）
迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

■ サラウンド効果の強弱を調整する
効果の強弱を ***EFFECT 0***（最小）から ***EFFECT 3***（最大）の間で調整できます。工場出荷時は ***EFFECT 1*** です。

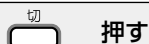
リモコン

押す

押して調整する

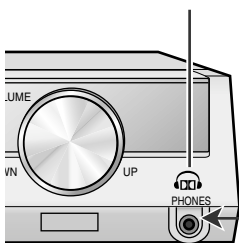
■ SFCの効果を解除する

リモコン

押す

STEREO

別売り品の品番は、2005年3月現在のものです。
品番は変更されることがあります。

音量をできるだけ下げた状態で接続してください。

●プラグタイプ：M3 プラグ（ミニプラグ）

ヘッドホン（別売り）
推奨品：
RP-HT530（3 m コード）
RP-HT770（3 m コード）
RP-HT535（5 m コード）
など

お願い

●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

DOLBY HEADPHONE（ドルビーヘッドホン）

ヘッドホンを接続すると働きます。

ドルビーヘッドホンは、音響特性の良いリスニングルームに最大5本までのスピーカーを設置した状態をバーチャル化するので、通常のステレオヘッドホンで5.1CHの立体音場が体感できるようになります。

入力ソースがマルチチャンネルソースなどの場合

入力ソース（音源）を再生する（➜ 左ページ）と、自動的にドルビーヘッドホンモードに切り換わります

ドルビーヘッドホンモードの設定変更はできません。

■ 解除する

リモコン

押す

2CH MIXモードになります。
再度ドルビーヘッドホンを働かせるには [DDヘッドホン]を押してください。

入力ソースが2CHステレオソースの場合

1 **入力ソース（音源）を再生する（➜ 左ページ）**

2 リモコン

DDヘッドホン

押して選ぶ

ディスプレイに“🎧”が点灯するとき：ドルビーヘッドホンモードになります。自然なサラウンド感のある音で楽しめます。

ディスプレイに“🎧”と“DD PL II”が点灯するとき：5.1CH音声で聞いてるような立体感のある音で楽しめます。

■ 解除する

リモコン

切

押す

STEREOモードになります。
再度ドルビーヘッドホンを働かせるには [DDヘッドホン]を押してください。

お知らせ

● ヘッドホンを接続しているときはSFCモードは使用できません。[SFC] を押すと “NOT POSSIBLE WHEN USING HEADPHONES”というメッセージが表示（スクロール）されます。
● ラジオや CD などのステレオ音声にも効果があります。
● 初期設定はドルビーヘッドホンモード「切」（STEREOモード）です。

ラジオを聞く

準　備

まず、アンテナを接続する。
(➜ 12「アンテナの接続」)

■ 本体で“*FM*”または“*AM*”を選ぶには

1. [INPUT SELECTOR]を押して“*TUNER*”を選ぶ
2. [MENU]を押して“*BAND*”を選ぶ
3. [∨TUNE]または[TUNE∧]を押して“*FM*”または“*AM*”を選ぶ
4. [MENU]を押す

周波数を合わせて放送局を選ぶ

直接選ぶ

数字ボタンを使って直接放送局を指定できます。

1 “***TUNER***”を選ぶ

リモコン

-ラジオ-バンド　押す

TUNER

2 “***FM***”または“***AM***”を選ぶ

リモコン

-ラジオ-バンド　押したままにする

3 ダイレクトチューニングモードにする

リモコン

ダイレクトチューニング ⑪　押す

4 周波数を入力する

リモコン

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩/0　カーソルが点滅している間に押す

例：88.1 MHz に合わせる
⑧ → ⑧ → ①

●周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。
●受信できない周波数を入力すると“***ERROR***”が表示されます。もう一度入力し直してください。

順に選ぶ

1 “***TUNER***”を選ぶ

リモコン

-ラジオ-バンド　押す

TUNER

2 “***FM***”または“***AM***”を選ぶ

リモコン

-ラジオ-バンド　押したままにする

3 好みの放送局を受信する

本　体

∨ TUNE ∧　または　押す

■自動的に選局するには（オートチューニング）
ボタンを押したままにし、周波数表示が変わり始めたら指を離す
●最初に受信した放送局で自動停止します。
●オートチューニング中、周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずに停止することがあります。

放送局を記憶させて聞く

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー（最大30 局）し、簡単に受信できます。

自動で記憶させる（オートメモリー）

受信できる放送局を低い周波数から順に自動で記憶していきます。
FM 局：　1〜30 チャンネルに記憶
AM局：　21〜30 チャンネルに記憶
●必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。

（お知らせ）
電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。

1 FMまたはAMを受信する
（➜ 左ページ）

2 “*MEMORY*”を選ぶ
本　体
MENU
押す

3 オートメモリーを始める
本　体
TUNE
どちらかのボタンを押したままにする

TUNE ∨：最も低い周波数から順に記憶される
TUNE ∧：現在受信している周波数から順に記憶される

●オートメモリー中は“M”が点滅します。
●放送局が記憶されるとメモリーしたチャンネルと“M”表示が約 1 秒間点灯します。
●オートメモリーが終了すると、最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

手動で記憶させる（マニュアルメモリー）

好みの放送局を好みのチャンネルに記憶できます。

1 好みの放送局を受信する
（➜ 左ページ）

2 “*MEMORY*”を選ぶ
本　体
MENU
押す
MEMORY

3 記憶させるチャンネルを選ぶ
本　体
TUNE
押す
または

CH 1〜 CH 30

4 記憶させる
本　体
MENU
押す

●続けて記憶させる場合は手順 1 から行ってください。
●放送受信を“MONO”に設定した状態も記憶させることができます。（➜ 右記）

メモリーした放送局を聞く

リモコン操作のみ

■ チャンネルを切り換える

押す
CH 1

■ 数字ボタンでチャンネルを選ぶ

① ② ③
④ ⑤ ⑥
⑦ ⑧ ⑨
⑩/0　⑫ ≧10

押す

チャンネル 10 以上の選び方

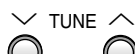
例：10
⑫≧10 → ① → ⑩/0

25
⑫≧10 → ② → ⑤

FMステレオ放送で雑音が多いとき（FMモード）

放送受信をモノラル音声に切り換えて、雑音を減らします。
●モノラル音声に設定すると表示部に“MONO”が点灯します。

本体操作のみ

1 “*FM MODE*”を選ぶ
MENU
押す
FM MODE

2 “*MONO*”を選ぶ
TUNE
押す
または
MONO

AUTO 、***MONO***
●解除するには“***AUTO***”を選ぶ

●選局し直しても解除されます。

3
MENU
押す

●ラジオ受信中に 本機や DVD レコーダーなどの各機器の影響でノイズが発生することがあります。そのときは 各機器の電源を切るか、AM ループアンテナを本機と各機器からできるだけ離してください。
●AMで雑音が多い場合は、本機のサラウンド機能を解除することで雑音を低減することができます。本体の [DD VIRTUAL SPEAKER] を、“*DEFEAT*”が表示されるまで押したままにしてください。元に戻すには“*DSP ON*”が表示されるまで再度押したままにしてください。

いろいろな設定／便利な機能

本体で行える設定／機能

小音量でも聞きやすくする

ダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのみ

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1. 設定モードに入る
   ∨ TUNE ∧ 同時に押す　SETUP　約2秒表示
2. “**DR COMP**” を選ぶ
   INPUT SELECTOR 押す　DR COMP
   DR COMP、***A/D ATT***、***D-INPUT***
3. 設定を選ぶ
   ∨ TUNE ∧（または）押す　OFF
   OFF：通常の再生
   STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
   MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮
4. 設定を完了する
   ∨ TUNE ∧ 同時に押す　COMPLETE

アッテネーターの切り換え

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に“***OVERFLOW***”が点灯した場合は“***ON***（入）”にしてください。

1. 設定モードに入る
   ∨ TUNE ∧ 同時に押す　SETUP　約2秒表示
2. “***A/D ATT***” を選ぶ
   INPUT SELECTOR 押す　A/D ATT
   DR COMP、***A/D ATT***、***D-INPUT***
3. “***ON***” を選ぶ
   ∨ TUNE ∧（または）押す　ON
   ON（入）、***OFF***（切）
4. 設定を完了する
   ∨ TUNE ∧ 同時に押す　COMPLETE

■解除する　手順3で“***OFF***”を選ぶ

表示部を暗くする（ディマー）

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

1. “***DIMMER***” を選ぶ
   MENU 押す　DIMMER
2. “***ON***” にする
   ∨ TUNE ∧（または）押す　ON
   ON（暗）、***OFF***（明）
3. 設定を完了する
   MENU 押す

■解除する　手順 2で“***OFF***”を選ぶ

スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。
就寝時などに便利です。

1. “***SLEEP***” を選ぶ
   MENU 押す　SLEEP
2. 時間を選ぶ
   ∨ TUNE ∧（または）押す　SLEEP 30
   OFF、***30***、***60***、***90***、***120***（分）
3. 設定を完了する
   MENU 押す

■残り時間を見る
1. [MENU]を押して“SLEEP”を選ぶ
2. [∨ TUNE]または[TUNE ∧]を1回押す→残り時間表示
3. [MENU] を押す

■設定時間を変更する
手順 1からやり直す

■解除する
手順2 で“OFF”を選ぶ
（電源を切っても解除されます。）

（お知らせ）
スリープタイマー設定時は表示部が暗くなります。

購入時の設定に戻す（リセット）

本機の設定を購入時の状態に戻します。
（メモリーしたラジオのチャンネルは残ります。）

1. “***RESET***” を選ぶ
   MENU 押す　RESET
2. “***YES***” を選ぶ
   ∨ TUNE ∧（または）押す　YES
   NO、***YES***
3. 設定を完了する
   MENU 押す

リモコンで行える設定／機能

二重音声の切り換え

AAC 信号の二重音声（受信すると“*DUAL*”と表示）を切り換えることができます。

音声切換　押して選ぶ

MAIN

MAIN：主音声
SUB：副音声
MAIN+SUB：主＋副音声

一時的に音を消す（ミューティング）

機能が働いている間、表示部に“*MUTING ON NOW*”とくり返し表示（スクロール）されます。

消音　押す

MUTING ON NOW

■解除する　もう一度押す

(お知らせ) 電源を切ると、ミューティングは解除されます。

サブウーハーレベルの調整

ソース（音源）を再生中に出力レベルを調整できます。
重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

サブウーハー　押して調整する

SW 10

---、*MIN*（最小）、*5*
10、*15*、*MAX*（最大）

● “---”を選ぶとサブウーハーから音が出ません。
● 音がひずむ場合はレベルを下げてください。

■細かく調整する

−/左 +/右　押す　---、MIN、1〜19、MAX と切り換わります。

音量バランスの調整

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L：フロントスピーカー（左）　R：フロントスピーカー（右）

1 “*BALANCE*”を選ぶ

トーン/バランス　押す

BALANCE

BASS、*TREBLE*、*BALANCE*

2 調整する

−/左 +/右　押す

L　R

●バーの表示はあくまでも目安です。

音質の調整

BASS（低音）とTREBLE（高音）を調整できます。
アナログ信号または PCM 信号だけ行えます。

1 “*BASS*”または“*TREBLE*”を選ぶ

トーン/バランス　押す

BASS

BASS、*TREBLE*、*BALANCE*

2 調整する

−/左 +/右　押す

0dB

–10 dB 〜 *+10 dB*

入力信号の設定

デジタル信号やアナログ信号を自動判別するのか、あらかじめ固定するのかを設定します。

1 入力（DVD、TVまたはDVR/VCR）を選ぶ

2 入力信号の判別方法を選ぶ

入力モード　押して選ぶ

DIGITAL

AUTO：自動判別
ANALOG：アナログに固定
DIGITAL：デジタルに固定

(お知らせ)
“*AUTO*”に設定している場合は、デジタル信号が優先されます。

入力信号をPCMまたはDTSに固定する

正しく再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。
PCM FIX : CDなどのPCM 信号を再生したとき、冒頭が音切れするような場合に設定します。
DTS FIX : DTS 信号を自動判別しないような場合に設定します。

1 入力モードを“*DIGITAL*”にする
（➜ 上記「入力信号の設定」）

2 設定を選ぶ

入力モード　約 4 秒押したままにする

右記のような表示が出た後、再度押して切り換える。

AUTO

PCM FIX、*DTS FIX*、*AUTO*

■解除する　“*AUTO*”を選ぶ

(お知らせ)
PCM と DTS の信号が両方入った DTS-CD が、正しく再生されない場合は、DTS-PCM を“*ON*”にすることで正しく再生されることがあります。ただし、その結果雑音が発生したときは、“*OFF*”に戻してください。
<本体操作>
1. [MENU]を押して“DTS-PCM”を選ぶ
2. [∨TUNE]または[TUNE∧]を押して“*ON*”または“*OFF*”を選ぶ
3. [MENU]を押す

リモコンでテレビやDVDなどを操作する

本機の他、**当社製**のテレビ、 DVD レコーダー、DVD プレーヤー、およびビデオデッキを本機のリモコンで操作できます。(ただし操作のできない機種もあります。)各操作について詳しくは、各々の機器の説明書をご覧ください。

DVD プレーヤーと DVD レコーダーを両方使用するときのお願い

誤動作を防ぐために：
- DVD レコーダーを操作するときは、DVD レコーダーに付属しているリモコンをご使用されることをおすすめします。
- 本機のリモコンでDVDレコーダーを操作できないときは、DVDレコーダーのリモコンモードの設定を切り換えてください。(詳しくは、DVD レコーダーの説明書をご覧ください。)

操作する機器に向けて

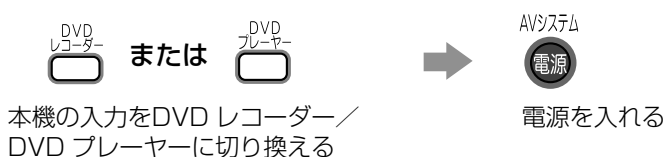
DVDを見る

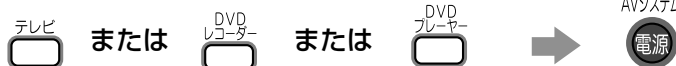
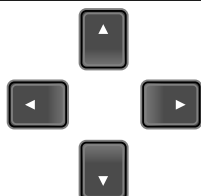
1 TVを準備する

本機の入力をテレビに切り換える → 電源を入れる → テレビの入力を切り換える

2 DVD レコーダー／DVD プレーヤーの電源を入れる

DVD レコーダー または DVD プレーヤー → AVシステム 電源

本機の入力をDVD レコーダー／DVD プレーヤーに切り換える → 電源を入れる

3 再生する

テレビ／DVDレコーダー／DVDプレーヤーの電源を切る	テレビ または DVD レコーダー または DVD プレーヤー → AVシステム 電源

操作	ボタン
トップメニュー(または再生ナビなど)を表示する	再生ナビ / トップメニュー
サブメニュー(またはプレイリスト)を表示する	サブメニュー/プレイリスト
機能選択をする	機能選択
項目を選ぶ [トップメニュー]、[サブメニュー]や[機能選択]を押した後に操作してください。	▲ ◄ ► ▼
選んだ項目を実行する	決定
DVD/HDD(ハードディスク)/SDを切り換える (HDDやSDのあるDVD レコーダーのみ)	ドライブ選択 ●切り換わらないときは、下記の操作を行った後、もう一度ボタンを押してください。 1. [決定]を押したまま、[8]または[9]を約2秒押す 2. [DVD レコーダー]を押す (工場出荷時の設定：[9])

操作	ボタン
トラックやチャプターを直接選ぶ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩/0 ⑪ ⑫ (ダイレクトチューニング ≧10) 例:1 ① 例:10 ⑫(≧10) → ① → ⑩/0 ●数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	アナログ-地上-デジタル ⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す(サーチ)	BS ◀◀ CS1/2 ▶▶
一時停止する	一時停止
再生を停止する	停止
スロー再生	一時停止 → BS ◀◀ CS1/2 ▶▶
前の画面に戻る	リターン 戻る

テレビを見る

1 TVを準備する

テレビ → AVシステム 電源 → 入力切換

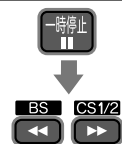
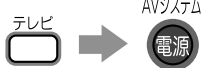
本機の入力をテレビに切り換える　電源を入れる　テレビの入力を切り換える

2 放送を選ぶ

アナログ-地上 または -デジタル または BS または CS1/2

アナログ／デジタル／BS／CS1／CS2放送を選ぶ

3 チャンネルを選ぶ

（順に選ぶとき）　（直接選ぶとき）

テレビの電源を切る	

テレビの音量を調整する	

■ テレビのチャンネルが操作できない場合は

地上アナログのみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。再度、[アナログ-地上] ボタンを押して、アナログ放送に切り換えてください。

操作する機器に向けて

ビデオを見る

1 TVを準備する

テレビ → AVシステム 電源 → 入力切換

本機の入力をテレビに切り換える　電源を入れる　テレビの入力を切り換える

2 ビデオデッキの電源を入れる

ビデオ → AVシステム 電源

本機の入力をビデオに切り換える　電源を入れる

3 再生する

テレビ／ビデオデッキの電源を切る	テレビ または ビデオ → AVシステム

巻戻し/早送りをする	BS CS1/2
一時停止する	一時停止
再生を停止する	停止

チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき）（直接選ぶとき）

録音する

本機のDVR/VCR 出力端子に接続した機器で、入力ソース（音源）の音声を録音することができます。

●DVD レコーダーやビデオデッキに録画する場合は、再生機器の映像出力端子と録画機器の映像入力端子を、映像コードで接続してください。

●各機器の説明書もご覧ください。

お知らせ

●DVR/VCR 入力端子の音声は、DVR/VCR 出力端子から出力されません。

●デジタル信号をDVR/VCR端子へ出力することはできません。

1 **録音するソース（音源）を選ぶ**

INPUT SELECTOR

2 **録音を始める**

押す

3 **録音するソースの再生を始める**

用語解説

アナログ

一般的な再生機器に装備されている左（L）/右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

デコーダー、デコード

DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル

デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのフロントチャンネル（ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。

光（OPTICAL）デジタル

DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。

マルチチャンネル

フロント、センター、サラウンドスピーカーで音声を再生することを指します。

AAC信号

ＢＳデジタル放送に採用されている圧縮音声です。 多チャンネルのサラウンド音声を再生できます。

ドルビー デジタル

Dolby Digital

(DVDなど)

ドルビー研究所によって開発されたデジタルサラウンドシステムです。

ドルビー プロ ロジック

Dolby Pro Logic II

ドルビーサラウンドだけでなく、2 ch で記録されたあらゆるソースを、よりリアルな音場で5.1 ch 音声に変換します。従来の２ch 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 ch の迫力ある音声で楽しめます。

ドルビー バーチャル スピーカー

Dolby Virtual Speaker

フロントスピーカーとサブウーハーだけで、多チャンネルサラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 ch における理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

DTS信号

(DVDなど)

DTS社が開発したデジタルサラウンドシステムです。

PCM信号

(CDなど)

アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号。これはCDなどに使用されたデジタルオーディオ信号の形式です。

5.1 chサラウンド

「モノラル」は1つのスピーカーで、「ステレオ」は2つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 ch サラウンドでは5つのスピーカーとサブウーハーが1つ使われます。視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5 ch、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため0.1とし、すべてを使って再生することを5.1 ch サラウンドと言います。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処置してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	13
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● ミューティングを解除してください。 ● 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。	14 19 14 6〜13 13 19
共通	表示部に“***F76***”が点灯し、電源が切れる。	● スピーカーコードがショートしていませんか。または異常に温度が高い場所で本機を使用していませんか。 原因を解消のうえ、電源を入れ直してください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
共通	表示部に“***FAN LOCK***”が点灯する。		
共通	表示部に“***F70***”が点灯する。	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
共通	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
共通	電源を切っても通電ランプが点灯する。	● コンセントに電源コードを接続すると、電源「切」の状態でもサブウーハーと本体の通電ランプが点灯します。なお、電源「入」にすると本体のランプは消灯します。（サブウーハーのランプは点灯したままです。）	13
共通	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。	10、19
共通	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確認してください。	–
共通	48 kHz を超えるサンプリング周波数のDVD を再生しても音が出ない。	● 著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。	–
共通	表示部に“***OVERFLOW***”が点灯する。	● アッテネーターの切り換えを行ってください。	18
サウンドモード	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカーまたはSFCを設定してください。	14、15
サウンドモード	ドルビーバーチャルスピーカー、SFCまたはドルビーヘッドホンが使えない。	● サンプリング周波数が48 kHz を超えるデジタル信号のときは使用できません。アナログ端子に接続してください。	9、10
サウンドモード	BSデジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
ラジオ	受信できない。 雑音やひずみが多い。	● アンテナの向きや位置を変えてみてください。 ● 音質の調整で、高音 (TREBLE) を調節してみてください。 ● 本機、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 ● FM 屋外アンテナを使うのも一つの方法です。 ● アンテナと他のコードを遠ざけてください。	– 19 – 12 –

Q&A（よくあるご質問）

Q （質問）	A （回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
長時間使用すると、本機が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、サブウーハーの放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
サラウンドやセンタースピーカーなどを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

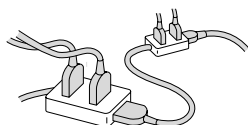
⚠ 警告

電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- ●抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- ●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

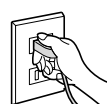
電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。
- ●電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- ●長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- ●傷んだプラグ･ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない

ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- ●機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- ●特にお子様にはご注意ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- ●内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起こったら

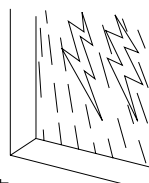
異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- ● 機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- ● 煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき

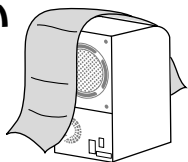
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
●販売店にご相談ください。

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない

接触禁止
感電の原因になります。

⚠ 注意

設置・接続について

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない

- **上に大きなもの、重いものを載せない**
- **取扱説明書に記載されている以外の方法で壁などに取り付けない**

機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

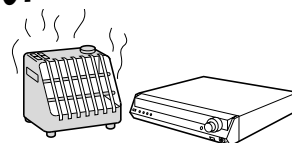
油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない

強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。

- 設置・工事は販売店にご相談ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

スピーカーは付属のものを接続する

付属以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

電池について

電池は誤った使いかたをしない

- **⊕と⊖は逆に入れない**
- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない**
- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水などの液体、火の中へ入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**
- **被覆のはがれた電池は使用しない**
- **乾電池の代用として充電式電池を使わない**

取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。

- 長期間使用しないときは、取り出しておいてください。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用について

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。

また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

機器に乗ったり、ぶらさがったり、もたれたりしない

倒れたりして、けがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

23ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。次の修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ナショナル パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
   なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SC-HT06	故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

• お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）
■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**
FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

ナショナル パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。
  呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

地域	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話
青森	青森市第二問屋町3-7-10	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(083)986-4050

四国地区

地域	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0105

さくいん

主な仕様

■ アンプ部

実用最大定格
- **フロント(L/R)** 40 W ＋ 40 W（1 kHz 6 Ω、JEITA）
- **サブウーハー** 190 W（100 Hz 4 Ω、JEITA）

定格出力
- **フロント(L)** 55 W（1 kHz 6 Ω 10 %）
- **フロント(R)** 55 W（1 kHz 6 Ω 10 %）
- **サブウーハー** 190 W（100 Hz 4 Ω 10 %）

合計 300 W

負荷インピーダンス
- **フロント(L/R)** 6～16 Ω
- **サブウーハー** 4 Ω

入力感度/入力インピーダンス
- **DVD、 DVR/VCR、TV、GAME/AUX** 600 mV/47 kΩ

信号対雑音比(S/N)
- **DVR、TV（デジタル入力）** 85 dB

トーンコントロール特性
- **低音** 50 Hz、+10 ～ –10 dB
- **高音** 20 kHz、+10 ～ –10 dB

デジタル入力	（光）	2
	（同軸）	1

■ FM チューナー部

受信周波数帯 76.0～90.0 MHz
実用感度 16.3 dBf（3.6 μV 、IHF'58）
全高調波ひずみ率
- **MONO** 0.3 %
- **STEREO** 0.5 %

ステレオセパレーション
- **1 kHz** 35 dB

アンテナ端子 75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部

受信周波数帯 522～1629 kHz
実用感度 20 μV、600 μV/m

■ フロントスピーカー部 (SB-FS06)

形式 2ウェイ、2スピーカー、バスレフ型
スピーカー
- **フルレンジ** 8 cm コーンタイプ
- **スーパーツイーター** 6 cm リングシェープドドームタイプ

許容入力（IEC） 55 W（最大）
インピーダンス 6 Ω
出力音圧レベル 81dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数 7 kHz
再生周波数帯域 78 Hz ～ 50 kHz (–16 dB)
90 Hz ～ 45 kHz (–10 dB)
寸法（幅×高さ×奥行き）
260 mm × 1129 mm (最大) 1069 mm (最小) × 269 mm
質量 約 3.9 kg

■ サブウーハー部 (SB-WA06)

形式 1ウェイ、1スピーカー、バスレフ型
スピーカー
- **ウーハー** 17 cm コーンタイプ、4 Ω

出力音圧レベル 80 dB/W（1.0 m）
再生周波数帯域 32 Hz ～ 220 Hz (–16 dB)
36 Hz ～ 190 Hz (–10 dB)
寸法（幅×高さ×奥行き）
209 mm × 361 mm × 463 mm
質量 約 11.3 kg

■ 総合

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力
- **AVコントロールアンプ** 20 W
- **サブウーハー** 100 W

寸法（本体）（幅×高さ×奥行き）
430 mm × 63 mm × 260 mm
質量（AVコントロールアンプ） 約 1.8 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 1 W

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

愛情点検　長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある

このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（　　）　－	品番	SC-HT06
お客様ご相談窓口	☎（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8151-3S
H0305XX3075